

座光寺石原遺跡 発掘だより

第2号



座光寺石原遺跡と正泉寺遺跡の発掘作業が終わりました

8月後半から始まった座光寺石原（ごこうじいしはら）遺跡と正泉寺（しょうせんじ）遺跡の発掘作業が、12月中旬に終了しました。猛暑だけではなく、雨後の出水に悩まされた調査でしたが、様々な成果をあげることができましたので一部を紹介いたします。

古墳を探して

調査した場所のうち、JR飯田線の東側部分は、かつて古墳があったと伝わる場所です。今回は古墳の痕跡を見つけることはできませんでしたが、古墳に副葬されることが多い金属製品や玉類などが出土しました。今回調査した場所の近くにかつて古墳があり、壊されてしまい、その土が調査した場所に入ったのでは、と考えています。



調査風景

金属製品と玉類が出土

表土下の黒褐色土を掘り進めた結果、古墳時代の金属製品や玉類が出土しました。写真上は辻金具（つじかなぐ）と呼ぶ馬具の一部です。長さ約3.5cm、幅約2cmですが、上の部分が欠損し元の大きさ・形はわかりません。裏側（写真は表側）には、固定するための鉤が3か所に付きます。金属製品は、ほかにも鉄鏟（てつぞく）や耳環（じかん）などが出土しました。写真下は滑石製の勾玉で長さ約3.5cm、厚さ約0.5cmです。勾玉は、これよりもやや小さいものがもう1点あり、ほかにも直径4.4～12mmの小さな丸玉などが出土しました。



辻金具（上）と勾玉（下）



古墳時代の竪穴状遺構を調査しました

古墳は見つかりませんでした。古墳時代の竪穴状遺構1軒を調査しました。形が極端な長方形で、底に段をつくるなど、一般的な建物跡とは違う特徴があります。ここでは、大きな須恵器の甕が、潰れて出土しました。

建物の性格はわかりませんが、来年度の調査予定範囲に続いており、その調査で解明されることが期待されます。



竪穴状遺構（長さ 4.8m以上、幅 2.6m）

弥生時代中期の竪穴建物跡？を確認しました

一方、座光寺石原遺跡と同時に確認調査を実施した正泉寺遺跡では、地表から約 80 cm の深さで、竪穴建物跡と推測する掘り込みを確認しました。時期は、出土した土器からみて、弥生時代中期の北原式の時期と考えています。

この地点は、来年度以降に調査を予定しており、さらに多くの竪穴建物跡が発見される可能性があります。



正泉寺遺跡の確認トレンチ



地元の皆様には、発掘調査にご理解、ご協力いただき、ありがとうございました。



座光寺石原遺跡発掘だより 第2号（令和3年1月吉日発行）
長野県埋蔵文化財センター 飯田支所
飯田支所：0265-49-0736 info@naganomaibun.or.jp
発掘現場：090-1504-0361 HP：<http://naganomaibun.or.jp/>
（担当：贅田明・吉川豊）